

日銀短観 (2016年9月調査) の概要

大企業製造業 前回調査から横ばい

日本銀行が10月3日に発表した2016年9月(回答期間:2016年8月29日~2016年9月30日)の全国企業短期経済観測調査(短観)は、注目度が高い大企業製造業が6月の前回調査から横ばいだったものの、中堅・中小の製造業や非製造業が上昇したことから、全規模全産業では改善しました。円高の逆風は継続していますが、4月の熊本地震後の自動車産業の復旧、新興国経済減速の一服などが景況感を支えました。以下、概要です。

- ① 大企業製造業の業況判断D I (景況感が「良い」(回答割合)から「悪い」(同)を引いた値)はプラス6で、前回(6月)調査と同様。横ばいとなるのは2四半期連続(図表1、2)。今回調査における大企業製造業の2016年度の想定為替レートは1ドル=107円92銭で前回調査より3円49銭ほど円高方向に修正されました(図表3)。造船・重機等や生産用機械等を中心に、輸出採算の悪化から景況感が後退しました。
- ② 非製造業は、大企業が1ポイント低いプラス18(図表1、2)。台風などの天候不順の影響を受けた運輸・郵便が大きく悪化しています。円高は非製造業にも影を落としています。訪日客数は増加傾向にあるものの、円高により訪日客の消費に結びつきにくくなっていること等が響き小売りも前回から悪化しています。
- ③ 全規模全産業の16年度の収益見通しは前回調査より悪化。売上高計画は前年度比0.9%減、経常利益も8.1%減と下振れ。景況感は一服していますが、円高による収益圧迫懸念は輸出企業を中心に依然として根強いようです(図表3)。設備投資計画は前年度比1.7%増と前回調査の0.4%増から上方修正されています(図表4)。

図表1: 業況判断D I (2016年9月)

(「良い」-「悪い」、ポイント)

		2016年6月調査		2016年9月調査		
		最近	最近	変化幅(*1)	先行き	
					変化幅(*2)	変化幅(*2)
大企業	製造業	6	6	0	6	0
	非製造業	19	18	-1	16	-2
	全産業	12	12	0	11	-1
中堅企業	製造業	1	3	2	1	-2
	非製造業	14	15	1	10	-5
	全産業	9	10	1	6	-4
中小企業	製造業	-5	-3	2	-5	-2
	非製造業	0	1	1	-2	-3
	全産業	-1	0	1	-3	-3

(*1) 2016年6月調査比 (*2) 2016年9月(最近)比

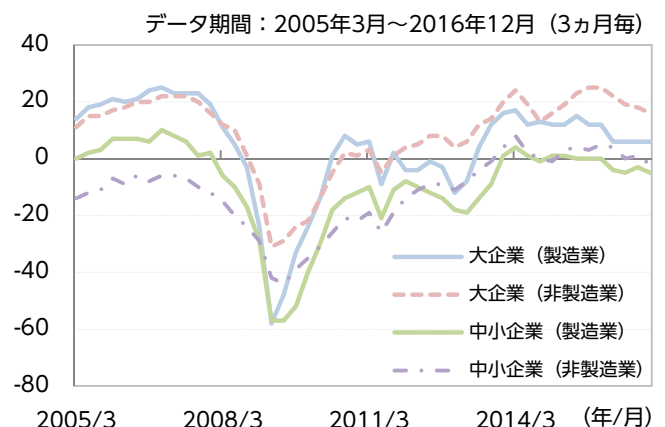
図表3: 想定為替レート (大企業・製造業)

(円/ドル)

	2016年度		
		上期	下期
2016年6月調査	111.41	111.46	111.36
2016年9月調査	107.92	108.44	107.42

※事業計画の前提となっている想定為替レート

図表2: 大企業および中小企業の業況判断指数の推移



※2016年12月は2016年9月調査による先行き見通し

図表4: 全規模全産業の設備投資計画

(前年度比、%)

全規模合計	2015年度	2016年度(計画)	(*3)
			2016年度(計画)
製造業	9.1	6.1	6.0
非製造業	2.9	-0.6	-2.5
全産業	5.0	1.7	0.4

(*3) 2016年6月時点での2016年度計画

出所: 図表1~図表4は日銀短観データを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等: ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント